

第5回サツマイモ基腐病の現状と対応に関する 情報交換会(R5.8.31)のレポート

(一財)いも類振興会需要促進部長 (日本いも類研究会事務局長)

なかざわ たてお
中澤 健雄

1. 概況

平成30年に発生が確認されたサツマイモ基腐病（以下、「基腐病」という。）は南九州で発生が広がっていたが、令和4年度は病原菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」という対策が講じられたことに加え、降雨が少なかったこともあり前年に比べると被害が大きく減少した。令和5年度は、5月中下旬に南九州で発生に関する注意報が出された後、梅雨期の降雨も多く、動向が懸念されていた。

第5回の情報交換会はこうした状況を踏まえて、本年の発生状況と防除対策、健全な種苗の育成、新品種の効果、排水対策の有用性などをそれぞれ専門家の方に解説していただくことにして、8月31日にZoomウェビナーによるオンライン開催で実施し、全国から200名以上の参加があった。

1. 開催概要

日時：令和5年8月31日（木）13：30～15：30

場所：Zoomウェビナーによるオンライン開催

主催：(一財)いも類振興会、日本いも類研究会

参加者：主催団体の会員の他、前回参加者

のメールや日本いも類研究会ホームページで告知

進行：座長 日本いも類研究会会長 小巻克己

パネリスト：九州や関東のJAや生産・加工・流通に携わる法人の担当者、研究機関や行政の担当者等

2. 情報交換会の内容

(1) パネラーからの報告

① 本年の栽培概要

・本年のサツマイモ基腐病の発生は降雨量が前年を上回っているものの、発生状況は前年並みである。この要因としては「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」対策を生産者サイドできちんと行ったことによるところが大きい。

・「持ち込まない」対策としては種いも専用圃場を設置して健全な種苗を生産、蒸熱処理または薬剤で種いも消毒を行ったこと。

・「増やさない」対策としては枕畝の除去等の排水対策の実施、定植後1か月程度にアミスター20フロアブル1回目の散布などを行ったこと。でん粉原料用に開発育成され、基腐病にやや強の「こないしん」への

作付け転換を図ったこと。

・「残さない」対策としてはさつまいもの連作を避けるための畑作輪作や水田との輪作を導入する農家もあり、効果をあげている。

② 新品種等の普及

・基腐病に対してやや強のでん粉原料用品種の「こないしん」はすでに1200ha以上栽培されており、基腐病にやや強の焼酎・でん粉原料用の新品種「みちしずく」は普及が始まっている。さらに、青果用品種として育成し、本年品種登録出願公表された「べにひなた」について今後の普及について期待しているとの解説があった。

・こうした新品種育成の状況を踏まえて、健全種苗の育成のための施設を新たに整備し、種苗生産に本格的に乗り出した加工事業者の方から、新たな施設の設置目的、規模等の解説がなされた。

・農家が単独に健全な種苗生産を行うことはコスト、ほ場の確保の問題等難しいこともあるので、こうした大規模な種苗生産施設が整備されることで、基腐病に対して強い品種の普及が加速されることが期待される。

③ 排水処理の重要性

・基腐病はさつまいもの葉や茎に病害を起こす病害で、降雨により栽培ほ場が冠水すると、まん延する可能性がある。本年、基腐病の発生が抑制されているのは、こうした基腐病菌の広がりを防ぐためのほ場排水対策技術が普及したことも挙げられた。

・ほ場の排水対策は表面排水対策と地下排水対策に分けられる。表面排水対策としては、①ほ場の凹凸を均平化して排水口方向に勾配をつけ、途中で枕畝を切るなどの処

置を講じることで表面排水を排水口の方に導水すること、②排水口が土砂で埋まらないように排水路等の圃場外との接続を確保すること、③圃場外（排水路等）との落差を確保することの三つの対策を適切に講じて、ほ場の滞留水をなくすることが基腐病をまん延させないことになる。

・また、地下排水対策としては、地表下10cm～30cmにできる耕盤層の破碎が必要となるほ場もある。実際に現地で耕盤破碎をサブソイラなどで行い、基腐病の発生を抑制する事業者もある。

(2) 今後の課題

・本年の基腐病の発生は抑制されているものの、基腐病に弱いとされるコガネセンガンなどの品種を継続して栽培しているほ場では基腐病の発生が増加しているという情報もある。

・こないしんの導入地域では発生が減っているため、みちしずくと合わせて種苗生産に取り組んでいく。

・また、ほ場の排水路対策については個々の農家の対応だけでなく、ほ場からの排水を受ける排水路の整備に対して地域で広範囲に取り組むべきとの意見があった。

・基腐病に強い品種の導入や他の作物との輪作を行うことにより、基腐病菌の生息を減少させることも明らかになってきた。今後、取り組んでいく課題となる。

3. 農林水産省による基腐病対策への予算措置

・農林水産省地域作物課から令和6年度の概算要求でも甘味資源作物生産支援対策において、サツマイモ基腐病対策についての

予算要求を行っている。

・具体的には、サツマイモ基腐病の次期作への影響を最小限にしながら、かんしょの持続的な生産を行うための取組やでん粉原料用かんしょの生産性向上及び省力化のた

めの多収新品種への転換や農業機械の導入等の支援。

https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r5kettei_pr08.pdf